

第45回少年の主張全国大会

—— わたしの主張 2023 ——

全国の参加者から選び抜かれた12名の中学生が日頃抱いている思いや考えを発表します。
中学生の鋭い感性と素直な思いから生まれる”主張”を真っ直ぐに届けます。(昨年度応募者:約39万人)

伝えてみよう。
わたしの思い。聴いてみよう。
あなたの思い。



中学生の創造性豊かな主張が持続可能な社会への契機となります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



少年の主張全国大会 WEB ページはこちら▶
<https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyou/>



令和5年11月12日(日) 13:00~16:00 (受付開始12:00)
国立オリンピック記念青少年総合センター

入場無料
(事前申込優先)

主催/国立青少年教育振興機構 特別協力/公益財団法人上廣倫理財団
協力(申請中)/都道府県、青少年育成道県民会議、全国青少年育成県民会議連合会、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会、公益社団法人日本PTA全国協議会
後援(申請中)/文部科学省、こども家庭庁、東京都教育委員会、NHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

第45回少年の主張全国大会

— わたしの主張2023 —

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切です。少年の主張全国大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願い実施するものです。

青少年機構 HP <https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyouto/>

動画配信(生中継) <https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyouto/download.html>

プログラム(予定)

13:00 開会(受付開始:12:00)

13:20 主張発表
12名の中学生が「わたしの主張」を発表します

15:20 審査結果発表
文部科学大臣賞等を表彰します

16:00 閉会



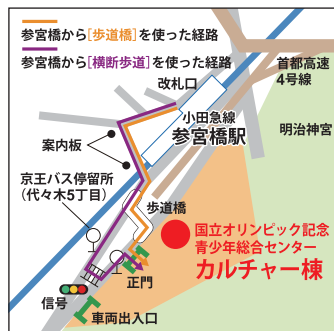
交通案内 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

- 小田急線「参宮橋駅」下車 徒歩約7分
- 東京メトロ千代田線「代々木公園駅」下車 徒歩約10分
(代々木公園方面4番出口)
- 京王バス「代々木五丁目」バス停 徒歩1分
<新宿駅から>新宿駅西口バスターミナル(宿51系 渋谷駅行き)乗車
<渋谷駅から>渋谷駅西口バスターミナル(宿51系 新宿駅行き)乗車

最寄り駅まで

<東京駅から>
JR中央線約14分「新宿駅」乗り換え、
小田急線「新宿駅」から各駅停車約3分
「参宮橋駅」下車

<羽田空港から>
京急空港線約15分「品川駅」乗り換え、
JR山手線(外回り)「品川駅」から約20分
「新宿駅」乗り換え、
小田急線「新宿駅」から各駅停車約3分
「参宮橋駅」下車



当日観覧 事前申込方法

国立青少年教育振興機構ホームページ内の
第45回少年の主張全国大会「当日観覧
事前申込フォーム」からお申込みください。(入場無料)

申込締切 11月8日(水)【9月12日(火)募集開始】

- ・新型コロナウイルス等の影響により、大会の内容を変更する場合があります。変更等に関する情報は、ホームページよりご確認ください。
- ・応募多数の場合は、定員(600名)になり次第締め切らせていただきます。
- ・事前申込みなく当日お越しの方も座席に余裕がある場合には観覧可能です。
- ・会場内は撮影禁止となっておりますが、表彰式に限り、写真撮影が可能です。

《お問い合わせ》 国立青少年教育振興機構教育事業部事業企画課事業係

TEL:03-6407-7726(土日祝日を除く平日9:00-17:45)

FAX:03-6407-7699

観覧のお申込みは
こちらから

<https://forms.office.com/r/TVBBtFPK5m>



第44回少年の主張全国大会 審査委員長からのメッセージ



千葉商科大学教授 宮崎 緑

メディアはメッセージである、というマクルーハンの古典理論があるが、まさにメディアは人間拡張の手段であり、その使い方そのものもまたメッセージなのだ、とこんな時代だからこそ改めて思う。若者たちにとって、既にメディアは拡張された部分での「自己」として独り歩いているのかもしれない。

本格的なAI時代を前に、多感な中学生たちがメディアを使いこなしてどう人間らしさを発揮していくくれるのか、これからの日々を期待をこめながら主張を受けとめた。皆さんが伝えようとしていることが、メディアを超えてちゃんと伝わっているように願いを込めながら。